

今朝も皆さまと共に主を礼拝できることを感謝します。昨日は子どもクリスマス会も行われ、とても楽しい時となったことを感謝します。気づけばアドベントも第3主日を迎えました。来主日はもうクリスマス礼拝です。今年のクリスマスの時も、主の恵みと平安、喜びに満ちた時となりますようにお祈りしています。

救い主の訪れ

今朝のみことばは、祭司ザカリヤとエリサベツの夫妻にヨハネという息子が生まれる出来事を記しています。神さまは以前の箇所でザカリヤに約束された通り、妻のエリサベツを通してヨハネを生まれさせてくださいました。父親となったザカリヤは御使いを通して語られた神さまのみことばを信じず、口が聞けなくなっていましたが、御使いに言わされた通り息子の名前をヨハネにした時、その口が開かれ、彼は神さまへの賛美を口にしていく。そのような出来事が今日の箇所には記されています。今朝はこのザカリヤの賛歌・彼の預言の言葉に目を向けてみたいと思います。67-70節。

さて、父親のザカリヤは聖霊に満たされて預言した。「ほむべきかな、イスラエルの神、主。主はその御民を顧みて、贖いをなし、救いの角を私たちのために、しもべダビデの家に立てられた。古くから、その聖なる預言者たちの口を通して語られたとおりに。

ザカリヤは神さまが御民を顧みて贖いをなしてくださったこと、預言者たちを通して語られた通りに、救いを与えてくださったことを喜び賛美します。この時生まれたヨハネは救い主ではなく、救い主イエスさまの前に備えをする人物です。しかし父のザカリヤはこのヨハネの誕生を喜ぶ以上に、その誕生が示すもう一人のお方のお誕生。救い主の誕生をここで喜び賛美しています。68節で「顧みて」と訳されている言葉は、訪れるとも訳すことができます。主はその御民を訪れてくださった。彼らのところに来て贖いをなしてくださった。そのように言い換えることができるのです。神さまがその民を私たちを顧みてくださると言う時、それは神さまが実際に私たちのところに来てくださるということである。ただその人のことを思い出したとか、心配してくださるというだけではなく、私たちのために来てくださる。そんな神さまの深い恵みと憐れみが、ここには示されています。神さまはご自分の民を顧み、私たちを訪ねて贖いをなしてくださった。これはまさしく、神の子イエスさまの到来、救い主誕生の出来事を示しています。私たちを救うために神の御子イエスさまが私たちのところに来てくださった。この地にお生まれくださった救い主の誕生を聖書は私たちに教えるのです。私たちは今アドベントという季節を過ごしています。アドベントというのは、ラテン語のアドベントゥスという言葉から来ています。アドベントゥスとは、到来という意味の言葉です。主の到来、主の訪れを喜び待ち望む時。それがアドベントである、ということです。イエスさまは私のところに、あなたのところに来てくださいました。偉大な神であるお方が、私たちのため人となりこの地に住んでくださった。そんな救いの恵み、救い主の到来を私たちは覚える季節を過ごしています。

そしてこのお方は再び、この地に来られるお方でもあります。アドベントはイエスさまの再臨、再び来られることを特別に待ち望む時でもあります。イエスさまがやがてこの地に再臨され、神の国を完成し救いを完成される時が来る。その時を私たちはますます待ち望んでまいりたいと思います。

敵からの救い

そしてこの救い主イエスさまが与えてくださる救いとはどのようなものであるか、続けてザカリヤは歌います。71-73節。

この救いは、私たちの敵からの、私たちを憎むすべての者の手からの救いである。主は私たちの父祖たちにあわれみを施し、ご自分の聖なる契約を覚えておられた。私たちの父アブラハムに誓われた誓いを。

ここでは救いが、敵からの救いであると言われています。この敵とは一体誰のこと、何のことでしょうか？この背景には当時のローマの支配という現実があったと思われます。この時イスラエルはローマ帝国の支配下にありました。神の民であるイスラエルの民が敵である異国に支配されている。そのような状況からの脱出、救いを人々は待ち望んでいました。それはザカリヤも例外ではなかったでしょう。しかしそれ以上に、この「敵」とは私たちを神さまから引き離す罪のことであり、悪魔のことである。そのように言うことができます。今日の箇所の後半の方でもザカリヤは罪の赦しによる救いと言っています。私たちを罪から救うお方。私たちの罪を赦し救うために神さまが送ってくださったお方。それがイエスさまなのだということです。

そして神さまはこの救いを、イスラエルの父祖たちと結ばれた契約のゆえに与えてくださったとザカリヤは語ります。アブラハムに誓われた誓いを神さまは覚えておられた。アブラハムとは、イスラエル民族の先祖であり、最初に

神さまから祝福の約束を受け取った人物です。このアブラハムに、神さまはこんな約束を語ってくださっていました。創世記22章15-18節。

主の使いは再び天からアブラハムを呼んで、こう言われた。「わたしは自分にかけて誓う——主のことば——。あなたがこれを行い、自分の子、自分のひとり子を惜しまなかつたので、

確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように大いに増やす。あなたの子孫は敵の門を勝ち取る。あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたが、わたしの声に聞き従つたからである。」

これはアブラハムが子どものイサクを神さまにささげるようにという命令を受けて、実際にイサクをささげようとした時に語られたみことばです。自分の大切な子どもを神さまにささげようとしたアブラハム。そのアブラハムに答えて、神さまは彼を祝福しその子孫を大いに増やすと約束してくださいました。アブラハムの子孫が敵の門を勝ち取る、敵に勝利するという約束もここでなされています。この約束の通りに、今度は神さまが私たちのためにひとり子イエスさまをこの地に送ってくださる。アブラハムはギリギリでイサクを捧げずに済んだわけですが、神さまは実際にイエスさまをこの地に送り十字架で罪の贖いとしてくださる。そのような神さまの恵みが聖書には記されています。

神さまが御子イエスさまをこの地に送り、救いを与えてくださる。この救いの恵みは、私たちが神さまに仕えるためのものであるとザカリヤは歌います。74-75節。

主は私たちを敵の手から救い出し、恐れなく主に仕えるようにしてください。

私たちのすべての日々において、主の御前で、敬虔に、正しく。

私たちは神さまに仕えるため、神さまを礼拝し神さまに従って生きるために救いをいただいている。私たちが救いをいただくのは、恐れなく主に仕えるためだと言われています。罪から救いだされ罪の力から解放されて、神さまに喜んで従っていく。神さまの前に敬虔に正しく生きていく。そのため救い主は私たちのところに来てくださったのです。先日までともに読んでいましたエペソ人への手紙にはこんなみことばがありました。エペソ2章8-10節。

この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。行いによるのではありません。だれも誇ることのないためです。

実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。

私たちの救い主イエスさまは、私たちが神さまに仕えるためにこの地に生まれてくださり、私たちに救いを与えてくださいました。イエスさまから救いをいただいた私たちは、神さまを褒め称え御心を行うために、良い行いに歩むためにこの地に生かされている。そのことを私たちは覚えていたいと思います。クリスマス・アドベントの時。私たちはイエスさまこそ真の主であられることを覚えイエスさまを礼拝し、イエスさまに仕える歩みをしていきたい。私たちが本当に仕えるべきお方はイエスさまである。人でも国でも、あるいは自分自身でもない。罪を犯す歩みから救いだされ、イエスさまにお従いし良い行いをもってイエスさまに仕える。そのような私たちとますますされていきたいと思います。

曙の光

そしてザカリヤは生まれてきた幼子ヨハネに呼びかけて歌います。76-77節。

幼子よ、あなたこそ いと高き方の預言者と呼ばれる。主の御前を先立って行き、その道を備え、

罪の赦しによる救いについて、神の民に、知識を与えるからである。

ヨハネは主の御前を先立って行き、その道を備える存在である。そして罪の赦しによる救いについて、神の民に知識を与えるのだと言われています。ここで生まれたヨハネは、バプテスマのヨハネと後に呼ばれる人物です。救い主イエスさまの到来を告げ知らせ、イエスさまの救いの道備へをする人物としてヨハネは用いられました。主の道を用意する働き。人々の心を神さまの方へと向けさせ悔い改めを促し、罪からの救いを教える預言者としての働き。それがバプテスマのヨハネに与えられた大切な使命でした。そしてザカリヤは、このヨハネが告げ知らせる救いは、神さまの深いあわれみによるものであることを告白します。78-79節。

これは私たちの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、曙の光が、いと高き所から私たちに訪れ、

暗闇と死の陰に住んでいた者たちを照らし、私たちの足を平和の道に導く。」

神さまの深いあわれみによってイエスさまはこの地にお生まれくださいました。神さまが深いあわれみを注いでくださり、御子イエスさまを通して救いの道を開いてくださいました。救い主の誕生に示される神さまの恵みとあわれみをザカリヤは歌います。そしてこの救い主イエスさまのことをザカリヤは「曙の光」という言葉で表現します。前の訳

ですと「日の出」となっていました。朝のことです。私たち暗闇の世界に住む者たちを照らす光。闇から光へ、夜から朝へ。新しい時代の到来を告げ私たちの心を照らす曙の光。それが救い主イエスさまであるということです。

先日T姉妹が天へと召されました。T姉妹は先月病床にて洗礼を受けられましたけれども、姉妹が福音を受け入れ信仰を持って応答された。それは曙の光であられるイエスさまが、T姉妹のところに来てくださった。そんな出来事であったことを思います。そしてT姉妹は今、イエスさまの光に包まれ、本当の平安の中、神さまの御手の中で安らいでおられる。曙の光イエスさまがT姉妹を訪れてくださって、天の御国へと導いていってくださった。そのような主の恵みに心から感謝し御名を崇めます。

私たちのところにも、曙の光イエスさまは来てくださいました。今日あなたのところにイエスさまは来ておられる。イエスさまは私を、あなたを照らしてくださる。私たちの心のうちにある汚れや暗い心、罪に塗れた心に、イエスさまは確かな光となって私たちを照らしてくださる。ご自分のうちにある真の平和、真の平安に私たちを導いてくださる。そのことを私たちは覚えて、感謝と喜びのうちに救い主イエスさまのお誕生を心から祝う者とされたいと思います。

ヨハネはこの曙の光、救い主の到来を告げ知らせる存在としてこの地に生まれ用いられました。私たちもまた、曙の光イエスさまの到来を告げ知らせる存在として、この八千代の地に、そしてそれぞれの地に遣わされています。毎年のことですがいつも会堂の外にあるツリーと飾りがライトアップされています。私は毎日ライトを点けに夕方会堂に行くのですが、願わくはこの光がこの道を通る人たちに届いてほしいと、イエスさまの光が人々に届いてほしいと、そんな願いを持ちながらいつもライトの電源を入れています。私たち一人ひとりもまた、イエスさまの光を現し証しする存在として、この地に遣わされている。私たち八千代聖書教会が、曙の光イエスさまに照らされた者として、その光を指し示すべくこの地に置かれている。そのことを私たちは覚えていたいと思います。今年もすでにお茶会や子どもクリスマス会などを通してイエスさまのお誕生を祝い伝える働きをしています。来主日のクリスマス礼拝や祝会、りとるらむのクリスマス会やイブ礼拝など、それぞれの働きを通してイエスさまの光を現すことができるよう祈り励んでまいりたい。私たち一人ひとりがイエスさまの光を証しする存在として歩むことができるよう、聖靈の力と助けをいただいてそれぞれの地へと今週も遣わされてまいりたいと思います。

これは私たちの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、曙の光が、いと高き所から私たちに訪れ、暗闇と死の陰に住んでいた者たちを照らし、私たちの足を平和の道に導く。」

アドベント・クリスマスのこの季節、ますますイエスさまの光を告げ知らせる存在として、イエスさまの愛と恵みを証しする存在として、私たちは神さまに用いていただきたいと願います。曙の光、私たちを照らしこの世界を照らしてくださるイエスさまの愛と恵みに心から感謝し、この光を指し示す私たちとますますさせていただきましょう。

お祈りをいたします。「私たちを照らす曙の光、イエス・キリストの父なる神さま。今朝も愛する皆さまとともにあなたのみことばに聞くことができましたことを感謝します。私たちの心を照らし、この世界を照らすお方としてイエスさまがこの地に来てくださったこと。神であるお方が私たちのところに訪れてくださった恵みを今朝教えてくださいありがとうございます。イエスさまの救いの恵みに感謝して、この光をこの地に世界に伝えていく私たち八千代聖書教会とどうぞならせてください。今年のクリスマスも、真の光、真の主であられるイエスさまにある恵みと平安、喜びの中を過ごすことができますように。みことばに感謝して、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」